

日本映画放送株式会社 第53番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成28年9月20日（火）15時～16時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員（順不同、敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正

放送事業者側出席者：代表取締役社長	杉田 成道
常務取締役	佐藤 信彦
編成制作局長	宮川 朋之
編成制作部長	澤 尚志
編成制作部	槌谷 昭人
編成制作部	三宅 歩
番審担当	堤 靖芳
	清水 明（記）

4. 議題（1）審議事項
日本映画専門チャンネル「東海テレビ ドキュメンタリー傑作選(仮)」について

- （2）報告事項
時代劇専門チャンネル「藤沢周平新ドラマシリーズ 三屋清左衛門残日録」について

5. 議題（1）概要

ここ数年、日本映画界でドキュメンタリー映画の存在感が高まっている。そこで日本映画専門チャンネルでも、ドキュメンタリー映画を企画・編成することで、視聴者や日本映画ファンの要望に応えたいと考え、現在「東海テレビドキュメンタリー傑作選(仮)」の編成を検討している。今回審議対象とした作品『ヤクザと憲法』（2016年公開）は、編成予定作品のなかでも、ドキュメンタリー映画としては異例の4万人以上の動員を記録した話題作である。

【審議 POINT】

- 本作の放送が公序良俗に反したり、暴力団対策法に反する可能性があるか。
- 本作は、日本映画専門チャンネルの番組として価値があり、放送に相応しと考えるか。

6. 議題(1)審議内容

- ・出演しているヤクザたちが名前を公開し、素顔をさらして、エンターテインメント作品として面白かった。ヤクザを長期間にわたって密着取材した制作者の根性にも感嘆した。難しい題材のドキュメンタリー映画を放送することに拍手を送りたい。
- ・公序良俗に反するとか法の精神に反するとか、まったく考えなかった。反社会的団体を取材するのはジャーナリズムの使命。ただ、日常生活をひたすら見せていく手法なので、ヤクザに好意的と見えてしまう。ヤクザの収入源について撮影してないのは不満だ。
- ・取材に入る前に三つの約束事をしたと冒頭で説明しているの、審議の第一ポイントはクリアしていると思う。日本映画の一大ジャンルであるヤクザ映画と、最近の映画界で重要視されつつあるドキュメンタリーの組み合わせは、放送コンテンツとして魅力がある。ただ、映倫未審査作品の日本映画専門チャンネルでの放送に問題がないのか気になった。
- ・内容が公序良俗に反するとか、法的に問題があるとは思わない。ただ、ドキュメンタリーなのにヤクザらしい場面がないのはどうか。ヤクザに銀行口座をつくらせない理由など、ヤクザの負の側面も撮影して、ドキュメンタリーとしてのバランスがとれると思う。
- ・審議の第一ポイントはクリアしていると思う。また、地方で放送されたドキュメンタリーやミニシアター作品を全国のお茶の間で見られることは、衛星放送の醍醐味だと心底感じた。一方で、ナレーションがあった方が視聴者には理解しやすいと思う。
- ・番組考査的には問題ない映画だと思う。作品としても高く評価したいし、是非放送してほしい。欲を言えば、組員だけに的を絞った内容にした方が内容的によりまとまると感じた。こうした作品を全国に向けて放送することはとても意義があると思う。
- ・フィクションと現実との違いを明確にしたこのドキュメンタリーには意味がある。しかし、ヤクザが一般日常生活者の人権を蹂躪する存在であることを撮影せず、ヤクザによって被害を受ける側の人権については考えない。逆の視点もまた必要だと思った。
- ・取材中に警察が踏み込んできた場面は、権力の最前線である警察の実態がよくわかる。山口組顧問弁護士が被害額三万円強の建造物損壊教唆で、執行猶予付きとはいえ、懲役が下ったのにも目を見張る。司法がその気になれば、どんな人物でも有罪にできるということ。ヤクザは市民にとって勿論怖い存在だが、その脅威は限定的だ。けれども、国家権力には際限がない。そこがこの作品のテーマの一つであり、その指摘は重く、憲法の問題に鑑みても意義深い。東海テレビの劇場公開されたドキュメンタリーを高く評価したい。

<事業者回答>

- ・放送している映画の多くが映倫審査を通過した作品であるが、テレビドラマや映倫成立前の映画、自主映画、ビデオストレート作品など、映倫未審査作品をこれまでも放送してきた。そうした作品も、また映倫通過作品も、弊社の編成担当者と考査担当者による厳正な番組考査を経て、適正に放送している。

- ・テレビ版はナレーションがあったが、劇場版ではナレーションを外している。ただ、ナレーション内容は、劇場版の字幕による説明と同じである。
- ・当チャンネルの本流はあくまでも娯楽作品を放送することだが、時にはCS放送局として鋭さのある編成もあっていいと考えている。今回の特集はそうした狙いの作品・編成だ。

7. 議題(2)報告事項

敬老の日の9月19日に、時代劇専門チャンネルとBSフジが共同制作したオリジナル時代劇「藤沢周平新ドラマシリーズ『三屋清左衛門残日録』」を、時代劇専門チャンネルで初放送した。現在までに問い合わせの電話が千件を超えている。好評につき続編製作を決定し、原作の藤沢生誕九十年、没後二十年に当たる2017年にBSフジにて放送予定。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成28年11月15日(火)16時より開催。